※令和３年度以前入学生用

1　国語

学校番号	T2101

令和５年度　国語科

教科	国語科	科目	国語総合 a※	単位数	2	年次	2
使用教科書	「新編　国語総合　改訂版」　（大修館書店）						
副教材等	なし						

1 担当者からのメッセージ

・小説・評論を中心とした現代文の読解を行います。
・詩歌の学習もします。
・漢字の練習、作文などの基礎的な学習も行います。
・声を出して音読をすることも大切にします。
・文章の意味を理解するだけでなく、自分の意見も発表してもらいます。

2 学習の到達目標

・小説を読み、登場人物の心情を理解し、想像力を養う。
・評論を読み、論理的な思考力を養う。
・詩歌を鑑賞し、国語の表現力の豊かさに触れる。
・基礎的な漢字の読み書きができる。
・作文を書き、文章を書く基本を身につける。
・文章をわかりやすくスムーズに音読する。
・自分の意見を発表し、他の人に伝えることができる。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:話す･聞く能力	c:書く能力	d:読む能力	e:知識・理解
観点の趣旨	授業に積極的に参加している。わからないことは質問し、発問に対して答える。課題をきちんとこなす。	文章をスムーズにわかりやすく音読できる。発問に対して、自分の意見を述べる。	感想文や作文を論理的に書く。感じたことや考えたことを、文章にすることができる。	筆者の主旨を適切に読み取る。言葉の意味を正しく理解する。小説の読解では、文章に書かれていない心情まで想像する。	漢字の読み書きができる。熟語やことわざなどの知識を持つ。
主たる評価方法	行動の観察 記述の確認 （配布プリント・課題）	行動の観察 （発問・発表）	記述の確認 （配布プリント・課題） 定期考査）	記述の確認（配布プリント・課題） 定期考査	行動の観察 記述の確認 （配布プリント・課題） 定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学期末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和３年度以前入学生用

４ 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点					単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d	e		
前期は実施しない									
後期	ペンギンはなぜ一列になって歩くのか？	エッセー１ 教材： 「ペンギンはなぜ一列になって歩くのか？」	○	◎	◎	◎	○	A:教科の内容に興味関心を持つ。 b：大きな声でスムーズに音読ができる。 c：内容を理解し、自分の考えを文章にすることができる。 d：文章の要旨を適切に理解できる。 言葉の意味を理解している。 e:文中の漢字を読み書きできる。	a：発問に対する応答 b：音読の観察 d：プリント・定期考査 e：音読の観察・定期考査
	子供たちの晩餐	小説１ 教材： 「子供たちの晩餐」	○		◎	◎	○	a：子供だった頃の気持ちを思い出し、登場人物の心情を想像しようとしている。 b：気持ちをこめて、他の人に伝わるように読むことができる。 c：内容を理解し、自分の考えを文章にすることができる。 d：登場人物の心情や情景描写を理解できる。 言葉の意味を理解している。 e:文中の漢字を読み書きできる。	a：発問に対する応答 b：音読の観察 d：プリント・定期考査 e：音読の観察・定期考査
	短歌・俳句	短歌・俳句 教材： 「短歌」「俳句」 「川柳」	○	◎			○	a:短歌・俳句の音読を通じて、詩のおもしろさを知る。作者の人物像に興味を持つ。 b：短歌・俳句を味わい深く音読する。 e：短歌・俳句の基礎を理解する。	a:発問に対する応答 b：音読の観察 e：定期考査
	羅生門	小説１ 教材： 「羅生門」	○	◎	◎	◎	○	a：芥川龍之介の人物像に興味を持つ。 b：気持ちをこめて、他の人に伝わるように読むことができる。 c：内容を理解し、自分の考えを文章にすることができる。 d：登場人物の心情や情景描写を理解できる。 言葉の意味を理解している。 e:文中の漢字を読み書きできる。	a：発問に対する応答 b：音読の観察 d：プリント・定期考査 e：音読の観察・定期考査

※令和３年度以前入学生用

	季節の言葉と出会う	エッセー２ 教材： 「季節の言葉と出会う」	○			◎	○	a：季節を表す言葉を通して、日本人が培ってきた感性について理解を深めようとしている。 d：文章の要旨を適切に理解できる。 言葉の意味を理解している。 e:文中の漢字を読み書きできる。	a：発問に対する応答 d：発問に対する応答 e：プリント・定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b:話す・聞く能力　c:書く能力
d:読む能力　e:知識・理解

※　評価の観点のうち「関心・意欲・態度」と「知識・理解」については、すべての単元に位置付けて〇印を、また、その単元で主として扱う国語の領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」）に関わる観点には◎を付している。